

## カリタスジャパン設立50周年にあたって

カリタスジャパンが、国際カリタスの連盟組織の一員として正式に設立されてから、今年で50年となりました。カリタスジャパンの活動を理解し、募金や祈りを持って、またボランティアとしてご協力くださった多くの皆様に、心から感謝申し上げます。

カリタスジャパンは、小さな組織です。キリスト者が少数派である日本ですから、その少数派の教会の組織であるカリタスジャパンも小規模であることは当然かもしれません。しかし、世界的視点から見れば経済大国にある援助団体ですから、世界中の助けを必要としている人たちから、大きな期待を寄せられ続けてきました。これまでの50年間、多くの方のご理解とご協力で、様々な地域に援助の手を差し伸べることができました。

カリタスジャパンは、これまで「一人ひとりが大切にされる社会の実現を目指して」活動を続けてきました。「人種、民族、性差、宗教や政治の壁を越えて、国連諸機関や国内外の関連団体と連携し、平和な世界の構築に貢献して」いくことが、わたしたちのビジョンです。

カリタスジャパンはそのビジョンを実現するために、「貧困や不公正などの課題に向き合い、人間の尊厳を尊重する社会を創り出す活動への協力を惜しまずに行い」、その上で「世界各地で厳しい生活を余儀なくされている人々の自立を後押しし、貧困の撲滅に力を」注ぐことを使命として掲げ、活動してきました。

この50年の間、インドシナ難民の受け入れ事業や、ルワンダ難民問題への関わり、また2011年に発生した東日本大震災の復興支援活動など、カトリック教会内外の団体と協力連携しながら、大規模な支援活動を継続的に行ってきました。同時にアジアやアフリカにおいて、女性の自立支援啓発活動や、子どもたちの教育支援など、目立たない小規模な活動も、地道に継続してきました。

とりわけこの十数年間は、神から与えられた賜物である命を守ることを最優先課題として、命が直面する危機的な状況の改善を求めて、国内にあって様々な視点からの啓発活動を続けてきました。また国内では、災害復興支援活動や、命を守るための小規模な活動の立ち上げを支援しています。

教皇ベネディクト16世は、回勅「神は愛」において、教会の本質は、「神の言葉を告げ知らせること（宣教とあかし）、秘跡を祝うこと（典礼）、そして愛の奉仕を行うこと（奉仕）」だと指摘します。ですから教会にとってカリタスの業は、オプションではありません。宣教や祈りとともに、重要な本質的要素であり、義務でもあります。

次の50年、カリタスジャパンは、誰ひとりとして排除されない社会の実現に向けて、あらためて地道に愛をあかししてまいります。

これまでカリタスジャパンを応援し、ご協力くださった皆様にあらためて御礼申し上げるとともに、これからもわたしたちと、命を守るための歩みをともにしてくださいますようお願い申し上げます。